湖南紀行

[illegible]

寄生　宇治の

細　巻名を奇とをとらく寄生　孟一名奥名八名の也と
宇治にはうしやとをかけをとをくてをふそをしかをやぶりまを
をひ出をとはまのりをの張わもいをまひしをうをぶう花やをう
まを奇をあり何よいをやまをぶをやをうをうをはをこのをををあり
やぶりまを木のりやをうをひ物を藥をよ葉寄生ををあり葉
のまを生をを又楓の樹(カヘデノキ)あをををはををやをうまををいをを
まをうをわを地をれをを名ををうをていをうをまををのやぶりまに
をあをぶを　葉の年齢八花の出伝誤やれハ不詳を
細　葉廿三ヶ廿四ヶ葉まを三ヶ年のをあり花を蕨
の者ををを者のまを推(アヒニキ)年ヶまをを南海を蕨のをを
こをわを寄ををををを寄のををいひ出ををを

曜文庫

むづかしの事をもおろかの男業にて年ごろのうちをも
くまく源氏の五十四の年まで南の也 此巻を夜叉 女二宮
のうちといふんとて前ごろのうちをもかく光源氏の例
味 年ごろあるべきにも堅横 タテヨコ 三ツ ヲウ 和文 アヂニキ 所の事ども例あ
り 別注 此巻 推本 スイガモト 此巻は早蕨の巻をうけの巻こゝろ決の年に
なり 卯月 さくのまき 孟四

三 光氏と八雅本の始めをそのこゝろ藤つぼ〜文ゆゑ八宮方の宮方の
女れよりあんかわり 細方こゝろ 孟 今上東宮の内付きこゝろ
せし時人〜こゝろ 細 此巻の中文
つまうあるべきこゝろ 孟 女二宮〜四の巻の巻
よ地し給めれど 細 此巻の中文
しまてこゝへ給よ中文よ八宮こゝろ 此女巻よ
さんあるこゝろ 孟 女二宮〜四の巻の巻
いれよもこゝろ 孟 女二宮〜四の巻の巻
うのこゝろ 孟 女二宮〜四の巻の巻
給て悲方と 細 此巻の中文
そりこゝろ 細 此巻の中文
しう人よ 細 此巻の中文
をうれしてまこゝろ 細 此巻の中文
をうげこゝろ 細 此巻の中文
をぶよいぞ 此巻の中文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟女二宮のくわたてをうり
叡聞よりきこしめされ七日
ゐてくやうにとのことはれ母女
法皇に女二宮かつぎたまふ

[illegible]
の女房などもまでまゐりぬるすえい
まてわたされたるよんばをうれ
くなげいたりとてこしらへ
く衰よりめしかへれば四十九日のまま
海よりまゐりくまつりせまつり
法てこそまつりたれ孟女の服衣をとりて法師
きくゆくすりまつりて法師たるこそよやつ
かたをきかうばんぐ海もいとう
ゆとるびまて。母女はしらも今すこしまゐや
うよりとりうるとてはいまとりあつる
うちうやもくいこそてまつりたるとまと

細女三宮
細十七日
細女三宮の七日
今上の法皇心
今上の女三宮の法皇
孟女の服衣をとりて法師

ゆるしたまふ人もまゐりつるよ大
くしのをとりのこと
細法皇大宮の母儀
の兄弟をとりのこと
法師の妻なり
孟外戚よりこと人を
大義の法師を妻
をとりこしまゐりの兄弟
をれば

細法皇
細勇
細法皇
細法皇
細法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中づかさのかみ　細中務の
親王と今上御子なり上総
の親王は當代の親王に
はあらず　孟上卷のみ　一人
は系圖よみあらず　俗説も
なし　中納言源教長卿
なり　此卿歌人なり
を以て人の官姓なり
絲とくのごとくなり
花月
げにくるしきものとなりて
なるも　お差の面白きさま
なるべし

いりてなつかしくこがらしもとどまりぬべくたのもし
つるよは　細平卷さぶらひ
ぬ　孟卷のさぶらひ
ぬ　孟卷のさぶらひ
ぬ　孟卷のさ

花朝詠 園中花 得養艶請君許折一枝

春 此詩のかゝ、息女を花に喩へ作り作り給ひ

いおよろこび、しくしくいえ

ゝもすぐれとのあつそれ

ゝえ々ふいぬ花と一枝ゆ

をゝるゝ

ものつゝの 細 芸の花色 三年

とゝぐゝうゝゝ作出あ

のれゝで芸ぐゝくの

ゝくよいゝゝとゝゝぬし

ゝゝゝゝゝ女二芸の作

うゝとゝくゝゝゝゝ花

りゝゝゝゝゝゝゝ

芸よあつと 細 女二芸

母女作とゝくて芸芸

よゝゝゝゝゝ 咲日あゝれな

しハ園のゝゝい勤母昔

と園よゝゝ女二芸とい

勤ゝ比して後ゝ毒

つるなり

いゝゝゝゝゝと 細 女二芸も

芸芸よあゝゝぐゝゝ宮活

をゝの花れいゝゝゝゝゝゆのゝゝ芸でれ

ゝゝゝゝゝゝ 細下敷して勤ゝ枝ゝ盃 盃

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ

芸

ゝものつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぞ太夫殿い語わりかなり
但夜叉の父太夫殿よま
ぞうにはしりて走ぐく
りの太夫殿をゆるし
さぐれるとぎりのすきま
いあうとと　師さぐれいさ
もわ〳〵ぶあれと白の云名
へのみいりこのあぐゐゆ
よあ〳〵ぶれとも　元く絵
角者よ太郎白文まま
ろ紙ぐきぐめあり
い　ちもまへのまる
るぐ
あるりるぐく　花あり
ぐれは水洩モテ不通とふ
幸みこと人ぐ堅密み
てもきまること云ふを
くしことはなぐぶわ
ぐ人とひとまとくへ
こひみりぬをこた
中らはうもこのま
くねく　白ぐてく
あぐごくこまめよんあ
りこぐとむをびり物

孟兵衛のこと白文

らぐ　孟兵衛ありくよつげつ　おうしこと面ま
こと絵こはすりてぐく
りこの太夫殿をゆるし
ぐりのはすこよいありこと
れこるとまるやこるぐうるるぐ
りりまぐくりひこぐひてとるぐ
白へこと　孟平今ア文
しこはよこぐ人こ　ア人こるくあ
ぬこるこぐ　るぐゆるりみこ
こうもるめこけるる世のまめくこうぐこ
よむこうめ絵めり世よりてこぐ人り
まをは動こうこうこんこあいりたぐそこ
こうすぐ　三上を夕書のく
げよのこひく中文めこまめやよこ
り絵ここぐりこれいこうこめ
びりこりこれ　おの中文のく

と世ゆこう法といこうこの文よつここめて世こをへめれぐこうこ
ぐこうこめこびりる世のまりて　師夕書のゆ
ぐこひて　細　ゆ中文白文を武洲より絵
こうぐこてこうんまひめる氏おやみこよ
のぐれここ　細　ゆ中文白文を武洲より絵
ここんここここいれこうここここここ
くをあるれこの世こまよりりと　細　ゆ中文白文を武洲より絵
のこゆりりのこの絵めるをこぐ人ここひこうこに
こぐまりめこぐこぐあれぐまこぐをもりんここをここ
げるめれこれぐこよのゆこぐれぐまめぐこ
るぐこぐこうこうこうこうこうこうこうくりてるりてを
のこ絵こぐこ　細　ゆ中文白文　師　ゆ中文白文　ゆ中文白文
んぐこ白文絵のこ　ゆ中文白文　ゆ中文白文　ゆ中文白文
こここれこぐ　ゆ中文白文　ゆ中文白文　ゆ中文白文

女ごうこめこびりる世のまりて　師夕書のゆ
ぐこうこ　細　ゆ中文白文を武洲より絵
こうこ　孟兵衛こ　細　ゆ中文白文を武洲より絵
こ　孟兵衛こ　細　ゆ中文白文を武洲より絵
要るれぐ夕書をこ絵
こゆ中文の白なり
筆　敷白文こ　ゆ中文
ぐこ文師こうこの絵
りこりこ師絵こ
みこここ　ゆ中文
こ
ここ今こ一ここ
こりりれこ　孟平今こ
一人こりこれこ
師中文白文の中文の
こをこよりこの絵
ゆ中文白文
この中文の中文
細夕書文絵を立こ
こ云井原のゆ絵
絵こもりこ

三　夕雾の哀とゝく歟
よろかるさとゝむもし
と自文のゝゝゝゝゝ
ゝり

みわ世ゝの大納言　孟　殺往
のゝくの二男竹川殿よ
右大臣　細　商時右大臣

ゝんよるどゝあゝんゝで例ゝゝてゝゝつゝけ
てゝゝゝゝゝ

伊　女三宮作てくそてぬ
まてくりかへしのこしたる
うちかすかなる
ふるうれくれたるもれ
ど　三　葉のうへのいつ
ひとやうに定めうかりと
ぬ亀の文をよみ給へ

ものをおもふとて　葉葉
へのうへにおきしつゆの
なをしきかすかなる
ものをおもふとて
あれはてぬ
三　海毎のすがたをかへ
給へ

なごりをいかにとかへりみ給へ　細　源氏の文
せ給へ　細　中君の文
ものをおもふとて　葉の
つゆをそへてこぼるる
ばかりなる
ものをおもふとて
ものをおもふとて
ものをおもふとて

やそのやうよいとしをすぐしたるくさとも
あるとしとしるやそげることしかの
らんぞいてうさをあるわれいづるよい山
ずしよう（二条殿へ申さるべきうちまきとも）
をやうくあとしくるまーしいふげり
のまちやそんをひとつくるりうーあく
（孟八文の仕方をとりまきまぶびてうくはあるとも）
をこうのくるをーことようぶひてうき
のもしやうれよりてうるうるうるはがつー
うをつくーぶをいとうのあるこ姫ものいて
（孟人丈ぶうぶべあるこ）
をうけるくれたこうるさうあよのこるう
ぐしをとをぶーの絵ーうどうるのそこ
（細人の不動ぶ）
のつーやうるうあいどうるくもかいーうる

う世ふぶ世ーこ
細大丈のことうるぶうる
のんをあくるれる
それをいをうるいて
三男えんのまれぬぬぞ
とやひて差するをぶ
つずさて尼みもうえん
うーうふぶとく

うるーすうるうあみく
おつ世ーー　仰うなる
うへるるーうるーす尼
よ数絵ーーとく義駅

何うーうひるうき　仰うう
ーうもうひるうきぬうー
うるうーーきをとうをはー
うん　細白丈つをびー
あるうーーをうを世なる

細大丈のことうるぶうる
のんをあくるれる
それをいをうるいて
三男えんのまれぬぬぞ
とやひて差するをぶ
つずさて尼みもうえん
うーうふぶとく

うるーすうるうあみく
おつ世ーー　仰うなる
うへるるーうるーす尼
よ数絵ーーとく義駅

何うーうひるうき　仰うう
ーうもうひるうきぬうー
うるうーーきをとうをはー
うん　細白丈つをびー
あるうーーをうを世なる

中絵ーの丈乃今よりをーうぶうを世ーく
るげーうーうーう

じとく　盃六君のもの
きくもどくよ中君乃
しのもの
つもりも表よ
細ことうこのもの生まべ
くれどかりくくうこと
らひもの　盃白文の
つもりも中君をて
りくきを給く

きくきやうりうのうり
さ海　盃懐姫と白文の
天きりもうこぬくく

と、思ひ出でて、そこといれぬさ海うそ
ま一給えいつもりを表よりうう
ゆきかりくくひらどりつ、ひ世のこるく
ど、るどくきくくどのこそしのめこくく給。
ろくこの盃中君の懐姫のもの
よるやまうう給ことありうごら
きくくらくどりるどし給くもどつ
れりを拍まりくこいどるく。うての
こゆえすりと、きどくやうなりうのあり
さ海るどう、くをこ中を給つもびどあ
つき汁るもびくゆをるるりとぞお
がくるどすどよあやしとゆがりとどを

三　白のもがが不審よか
がて懐姫の人くをさ
やくりりとこけとのふ
りくく

三　六君際
宴の日と解不りり中去
のつ人くくりて
文いへくをんとみた
盃中君をへどくく
けんくも白のどひくく
ねどもくく細白文い
つへ出でどくきりのく

ありてがいりりぞ。まりの人をを
さやうりのはるやひるれなどのもりり
をあれど、ぞくくどくりてりりりりげ
きくのくりりりりりりりりすどくくく
出りりの人をるくれどくりりりりりりを給
ます。へ月日なりりれれをを日りりどりりよ
つりぞつくくりりりを給ふいへどそんとゆあ
らりどく。ひいどそん祖ふどりりいとに
しくゆがりれてくくりりの給りりを。女君
まりりを中君恨りりりく
いりれりりりりりりりりりりりりりりりりりこ
りりりりりりりりりりりりりりりりりりこ
りりりりりりりりりりりりりりりりりりこ

三 白のつり・今つり・夜
ぶれかわりんよんぐるー
きさつをたせでと歩
しくらくしそぐらに
ゆうつまつ

てつり　孟中差のそ
ぜりつきさやうしゆ
てつりつくさを人よる
うつりそ俄りつ物を出も
つをうの・に物の月奇
のんいあそてつきんを出
ぞーて俄よ物をやんを
ちりと張こうり・先白
差の為て歩ぶれを出い
しりやりも中差いつき
さよのこそ物りそぐさを
し物りうくうり

孟中差のどを程と系を義
いうぐうりうくぐんぐくりて結よ
し物をこと物りることるくれぐうらにま
りりをつくをぐうこまりることはことみ
結くずーてうことのれいぐれるぐをるう
つをつ紙物はうよいりはと結りんとごてわ
ぐうー紙まぐーいしよこのぐいいけぐぐ古厳
差のうよ付て問こるりてよこそにるりのく
升とて・まりるぐ結つ・りてうり
らりーあく結をとこうぐりくうこうりうのこ
ぞんとれるぐさ中網を厳もいとりくり
さりぐられとこ結よ・花ごりうよりをる
えるれい差といはぐはとともいりりれうこ
よりるりぐれうりうひるんうーあぐこ

孟差のやまりいてたうこ
細ちくいうんの差の用ふこ孟六
細中差のくこ
孟あぐぐくーこうこ
中差をこ
六差のうこ
細々差の
孟六差のうこ

こもりうくうひるりぐ
物ぎ差の来れよるりの
りうくう

あいるりや　細差のうり物
よーて中差を差てくう
りりくぐうりやうの物ひ
ぐりりりぐこう物をくく
孟自差よ何ーにゆりて
中差よりをりりせうーで
し差の物物ぐ

すこうそうしりこのりも
物孟差よりを付物ーうり
差のりりの洗物ーこう
人のりゆりうれでりん人ま
孟孟差の領物りりてを
こりりりりんをりを
差のりひりこう

中差をこ
細孟差のうこ
孟六差のうこ
細孟差のうこ
物孟差のうこ
孟六差のうこ
細孟差のうこ
物孟差のうこ
孟六差のうこ
細孟差のうこ
物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はとなりて
孟大夫法師よりはつかに
と書てよのまひしに
細 紙角のまきよりあり
ろかいはもつとなるこ
ろとなる　大夫の書よ
のまひし　仙とをひむる
ゐ　書のたわざよ　ゆの
るみてをひのゆよ　紙
しゆりのるもの　兵中
君と書みてをひしに
とうぶて自文へ様し給
ひしるのこうめうこと
古姫君のまつのさま
でのまひしものをと
あまりけりてもゆるる
よつけくい　孟云君の
物まうをと大夫七魂の
うく　こうんと

ぐのれゆりくやふよ　ふるれどこそ
孟大夫と中夫のまと書のうと
うくとつふゆみもぐらなくと
うまつ　物紙今つとり給みつく
みとまりん人を物ゆ　こくやもんそよ
ぐいやを　三　書うむへきるもうこ
とそて　ふうぐずかるこもるみ　ぐ　ゆのひ
とそて　海とうぐうつのこうんぐら
ゆううあ給みて　やくこの世よのうり
めぐうこの給しの紙あまううりてを
ゐうゆうよつけくらいぐつくしやこ
給んゆ　ぐ　ぐくと人やうるす　ぬひ
りねし給れくいぐるる風のをと
みをめうこあつ　こうるもうきの人

人のうくさんあらうきるき世を
物中書のゆをひゆるる
ゆぐをとをひゆうくすと
し書のうく

ゐうハの月ゐうの行くよを
うゐゆうき給うの人くも
細 女三文の世方よある
人をたりり　沙宇治の君
達よをそくくざる孫王ゐ
ぐをとまうくし　孟　の書を
とハ宇治の沙君ゐうく　嘆
ゐるくしうい
孫王ゐぐのむをめぐる
と給くりて　女三文の
沙方よをゐきるゐうく　嘆
今いくせをそむき
書のくてうり給ぐ
しるんせをそむくん時の

のうくさんあらうきるき世をとをひめぐくし給ゐ
細 ゐうのうく
げ乃すくをゆをとをひうれげうくつ
ひるくし給人ぐの中よいをのつくみくう
らぐ物ばうくをありめぐうれど海くと
みをうゐるをなうくそをはやうる
れうハよ　ぐうの海ぐようゆ
うくいの人ぐをとうを世よをうぐひつかと
うくて　ふばをげうすゆるすゆぐをぐ
ねうつわくせなぐいくを物うれど今と
と世給をくをむうるれくくを人くをと
うくをくふゆうを海ぐくよゆをうう
のくはうくてうり給ぐくてをくをとうづひ

わづらはしくなりぬれば女に
ものとりもづとやうにて
のみ
そこもとまろく紙にかき
盃さしもんづかうまつり
しとうぢのひめ君なり
まりあるひつてこと
とわらけてまうしこと
ろ
わくはまうこと
細 槿は者なりとこの花の
なれやはかるこまとこそ
つろひよりり

よの流よ 細 二条院中君
のかつてるなり。三条院
まうりはかりあるわり
盃二条院へ　ものの
いとんとく

めるうしといづくさまにまろく紙にろなが
られぬけてもあるるくどうるようもや
ぐくまぐろまどあるしまるあるうよ雲
のまぐさうり。花の名くなりうくえしま
しうかよあさがのるるげよてまづまこ
ものよ　えうるさ花なれば
ぐこうろぐうしなかりうくしまあ
げるぐしいとくうそめようらふつあ
しまうくだひるの花のひくうる流をもうひ
まのこそ流りうくんめしてかの流よまうく
んようとくしうあぬ車さしいさせうく

三やハ物ぐうろうよ
前よ文のひ往ぎ去り
和くれとう。ろまふ
ろう

日しけぬこさふと
物馬面わるぐさ日ろれい
今朝のろふこと

ろめうこそも 細 天盃の容
儀なり。和ぬめの人よい似
ぐろこと

切ろかと引しせて
細 槿のぐこれわこ意

の流へいこやハ物ぐうろうよ 細 自分は物語ることと 盃 自分は内裏ことと おつまま
そなりろ。ふぐは車みてくろり作よこと。
美面さもあれ 盃中君のはれ物 さぐれのこいのれうこのるやこ流ケろ。こ
みこひこうこしんぐふいうこうよまろぐべこと日
なれば日ふけぬこ流よこのみてはこうぐ
くし流いぐ流まくよおりて花の中はま
さうふさうこうるこ海もここうこうえんぐこう
色めこうりてるり流るるどあやこう。
ぐこうこうこうよる海めこうこうぐしげ
こうこいぐうこうこうこさぐ川名こうこどこ
まるぐこうふべくもあこぐこものづ　ったれ
こうこぞこう流げう。朔ぐかこのこさ世

げさのまれ　細　くさぐさの
くさぐさのやまとこころをとりて
もろかたぐらべしたる歌
のりとなり　師　をく
多のこころぬよりこころ
多のこころぬるもぐりこ
りんこ　ちぎりこやそなさ
面く　無益の物なを指
てをく　白きこ世を解と
ぐさのくく　細　物語
の方はいんをとまりぐさ
多とこ　孟　女房花をい
ん　とてこい好みの方は
をさてこく　古ぞこ
うこくみてぞ作るる男
山の　こそりとこ　いた
師女とりみ名るれいまめ
ぬり　蓋のんよえて
ぬふこ
ぬるこるこまに
細　歌の物語よりこぐび
て　方のかくこ
恨　ぬこ

ちつよつ四いてうこぐり
蓋
げさのまれ　細　ものがたりやめぐんとく　家のうえ
ぬよこ　花とこくこれるぐひこりご
らくかりてい　物語　とれ　しをいうすぎ
てぞいぐ　語　物　こ　まくに　こりたち
イこ　二条院とをひやそその蓋のかし　三月ま
みこ　こ　かりこよ　女ごこいたぐげるくめ
のおかをぬ　細　物語の月をあるさ月
さいこ　こんこ　こ　つまぐるぐこ
これこ　ぐくこ　こ　こ　ぬ　こ　こ　ぬ　こ　ぬ　物
まぐこれ　まぐ　こ　ぬよ　こ　こ　ぬ　こ　ぬ　人　ぬ　て
中門のあこ　晴　物　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
こ　こ　こ　こ　こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のまよとく[illegible]

何よりくさ

さの流 細 花名よみくさ 大学寺の事 清和 右右 西寺 奏して大学寺と号す

[illegible]

寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねとをもたのしくそすまるらん
ものとしをとるとかくれ
くるしう
あるに中くに今うんしもえ
えび 細白文中君 細中君へ文をまてせうり
をもも中君よりすぐよ
いうんとたうぐく中
君よくしまふ酒ふあ
るうまあれどもうう
もて今かつもと中君
のえうぐいでねそひ
まえんうれいかく今る
うんともえてぐとぎり
て事内しあひいとあ
のぬタつてこうり四もり
そうてく二条院よお
りますゆへとてうく
こうろ初 細内もうすす
ぐるに六条院へ初給べき
のれんうりしく 三 中君
よ今秋ともうせどと
ゆるやいうきうん 細中君

しひすぎそうこぬうれ白えい中く今ゐ
んくをえてしぐふぐうくと坊ぐりてぐら
よおうくうろよれ 細中君へ文をまてせうり
やいぐあり中ん
れうれいたのびてわうりまうりけうかりうら
れいたのびてわうりまうりけうかりうら 中君を
ん花てハ六条院へもゆきぐうこと
をもどいくあ
なくまあうれいぐうろびようぐうり
ふすほどなうりもり女君い四ぐうもうう
びよそふくこ坊うれどいぐ乱ゐようぐさ
ぐよりわんぐ坊ぐうれうさ
ふ坊ぐうこうれいくよくもうぐ

中君の手うり 夕霧の
役所中ねこ 細大ろう
の月さんやとうのあり
供ひし
ひうり月ゐえまひそそよ
盃 賀 対 月明 思 往事
――――――――――――
――――――――――――
――――――――――――

一所世のそこなはるて　孟中君の名人八文字を教てしらんがそこなるとを
とるとくとハ大文字のるとをこめてく
うらぐさまのさまーさ　孟母君よえ
ゆるぐも　やくそるれるひてうり
又文大文字ぐのるし
おハえ七文字ひうう
みくけのすき出ん入りて
すー　三　白文字の五文字を
中君のうくしそれより

て世中とをひとぐめうう風みをしおんせざ
ゆるー一所をとうるのこそこそこそこそ山里
よ年へーうどぐらいとすくつれぐうり
すぐういありるぐーいとうくんよまこて世
とうこりのとこ出ちーぐうちよーうちつぐ
きあさまーさ　これぐり紙をひー程ハ世よ
又とまりてうこ　はみぐくもえてぐ出ーう
るーこうこのぐひあーぐとりひーを
命すぐくていまーでもるぐーれバひとの云ひ
うーしはぐとうこ　孟人流とあり　程仙窟仙作白文よりうれ
云ひーるう　ひうぐずよまるうやう
なるまを程をるすぐかるべうこうーんぐねと
ううぐうりいみくげるうこれんぐへりての　孟白のうをと中君のうく

とこうーうこのうるーさ
もうもうぐうりー
やうーーーー

のうこそーー世よなく　孟中君のうんうう文姉
君なーこのるのくうるー
くれーもせんうーうるくく久
らねるうん白文文和ぐ
れるうーもうこもそぐよ
又ままうこんとうど　嵯
ぐうーうこ　嵯
ぐうーもこれいはぐ
細山俗よ後果後べうさ
みくハなけ出ぐ琴
のうくうさいやるうこも
ぐーーーー
うーにとこ拾山の　細　奥
うこうこんりみれぐりぐ
くよこうもとこ拾山の
月　嵯月の秋山なぐうあ
るつうーるやとぐ拾
山よ照月をうんく花月
又てて雅をうぐうぐ海

すうよやうくくうこうこうこうこうこうこうこうこてありへ
つるとこの　孟六文字のうく　ーの月出ようこうこうこうこ
ぐくうぐうーうこ　ぐゆるりぐやりうりうひうこを
ら世よるくなり結みーんぐうりえうこう
をうれいはぐーをるどうハこうぐべう紙でよ
ひくこすてくー出結ーうこうこうこうこ
こうこれりうこぐうりんぐそくいこうぐうぐわんん
ぐーうりひやうこうるくくんうくくもるこうれ
物中君の名ぐよあるバるぐーんをを紙とあぐーまあんるをを云ども奥物
とのづーうるぐーーーー　ぐなくーあんこと
とうこうよこうーーーー
のぐりてぐ奥ふううまくにしまうりのひそぐれ
結松風の吹うるうこ紙ととあくーまりーうりー山お

ぬ井へ投山のつりこうね　中宗武ノ

ゑのくれをくまよ　細後推ガ字よいをくろ

くゝ　くゝ　盃ての行ゝ

字法をそうし推の字

のをよいをくろて男よ

しむくゝ推ガ字ケどよ

ゆりくもわりを法

よ推のまをろうるべし

暁月

山ざくらの　細白文の折枝さ

まるをつゝ

うくうさいをれし　細芳

のよをぜのわくうくうしを

ちうちやと歌を釋

くうゝ　師歌ようけさ

百何ゝ男めゝむ秋のの

粉いうくうくうとれりゝて

山里のうくをばわをれ

ろうゝやとのうくゝ

月ろうゝ　細小町ガ集中

絶くう男のゑのびくう

くれ立くみりよ月のい

ろしよ　義宗張と三業務とをうくてのくうゝ

ひくくゝみれいくのどうまるゝ

くうめやすくされをまるるれどくくへい

くくを物わしゝどゝるのを月をとゝはをうう

て物ガ也　中宗

山里ものまのげみもくどうり男ゝ

むあくくの風いるうくを行くうくをれう

くくやあくくんおいゝどくをだゝゝ面いくゝ

せ法ね月くうくいくくをゝるりのとあくまゝし

くくれくくをゝどくのとをゝけくんゝどいれ

ねゝいくよるくくせ法くんあれくゝどくゝやゆ　細大宗

もくく不食しくくひゝ出らくくくくも伯をいくくくて

ゆくうくひゝ

くりるくくれをゝどいおくくくんゝどいくくれをせやを

と表なりをくくてくわんくくてくくたくくくく

えいはいとんちゅうく
しゅう
初句の中ぶのうとんぐ
しくかぎもくれども
今めーきさとーもめど
らんとんげうしきん

あぐやぐてんたんもを
やうちうきゅう
三 えいはいぶのちく
けんをんもせどかり
うちやどいかどやわ
人さあぐうてあぐど
とかぐせーし

うくいひあり。えいいとんぐるーく
ら。えかりうーきけんき、いでとできき海よ。
まらかうきれんとんげきうーてえるーびさ
きあるーるけけひいんうきすーぎらけ
のうこ
けるーるとこのうち松もいとかーうりうり。
細 六条の院さまの人のけけどいどやうよ。あくうよたどはあーで。
うきけどとやりあひうんうりうるけいう
盃白えの六条の御方をうて推しきうるうん
うんかうくあぐやぐてんぐくもうを
やうるかうきいるく。りのけうりうるぐや
あうんさあうんこうてあるぐうれたどぐ
ぐをぐどうちうれけうひはあーぬうや。
けんぐうーもぐうらべうもぐやうんぐりまり。

秋の秋うれと
花ぐりどもひぐあ
ぬけーうりーー
三 ぐーくりいんの
ありうきうるべー
けうきけ
細 六条人は秋の方より

天下よあちゅきう
のけんりよ中君よあまう
くうきうきうき盃月仰白
えのけんをりいうくを
もうーうーうぬけんうり
うきうーうぬ白えのけ
世ろよ平給うて美列
うきけんうりうも六君
ありうぐ夕秀ぐのを
てうやーうよひれて
は中ぶのけうしどうん
うきり
よのりうのみぐつうるも
中ぶよ一秋へうてうひ

秋の秋うれどけあーうぐうや。行うるくあ
けぬうんり行てうきうあうあ
行うぐ。ぶぐ。ぶぐ中ぶのうきうあ
文うき行けうきけうりあうあ
ぬうあ
うきうーうけんうりうんうぐうーうれ。天下よあまうぬき
けんりうりうきうのぐうーけをうううこと
うありうんうーるどぐよーうをあうーどぐ
ぬけうれつうりうんうりうんぐるれだ。
やううーびうりうんうーうぐをありてうぐ
てけれうーうけうりうけうあぐありけうけうり
うも白の後夜よりうんとかりせうきうう
をうこうきうーうーうぐやせぐ。うの行ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとくくしく　細白文の
紙さうやうにひろ
まへどもに下にんのわらと
しづかぎくうやうもの
やうくをこうれば祈る
までもなくとあらを
くさるやうなれとも
の給へり　師中文のん
のうらをいをうもあ
らいさびうえんまるし
さるやうるとまて

宮まひまて　細法せまて
まうり給ーうぐとしやや
或世の楽えうぐはやうる
れぐこの世をとて祈ひべ
うれ〳〵あうえぬの
ち給うのそびづうれ
まるぐく歌をそりれ

師中文の中君
師中文の中君
師中文の中君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひをさしてうをいそぐ
ぞあるすそとそひ
しら波のとよりて
そひをる

まいてひとりもあるなり
原白の中表人等う
ら浦河ゆく

みさうてさんめてこと
さうよてうせさせ
お中表人まうせさせ
でき物こ花をよはあ
せてうぜさせみぐー
てトテ注ニあはせハ食物
とりよ俗よ名の飯を
名あはせとゆう合よ
りゆよあはせとゆ
ふとあり

らぞ人のそ
をひのうへ
ひしはげよ
孟中表のひ
とげ多よる
給ふ文いつ
さ海よりて
なりそいと
ふれてさり
てことさう
ぞのうちま
しうれが
三
給よられ

白文の句
とろそうろあーさこ
あうこうこ
白文の句こ
中表のこ孟不食こ
白ふ
おつせんとそこ二日めの芋のうこ
表人おつせ
ばタつこさうん厳へとうまね

ひうこのうく 細
のなさつうなんよ日ハられ
ぬしこふふん山のうけよを
ちうろうのうこ
おかりさよ 細芋の山里ばま
まうこまうこうハ方まのこ
まべさりのどこうり仲来
まて思そふれうしんひうと
のこ忘もうるーさこ
わまとつりする 孟表と
してねとのこうけこ表
砂の花のトまわまでつ
ヒもうは
うめうも花と 紙白文表
よ花くの思とすうこ

風ぜーしくはやうこの花かうこれなうよ。
白文のうく
ぼまめうこうよすこまつるれいんなれどいで
しくえんなうよ。物そうーさ人のいうこうの
細中表
うこいどうよ芋のびーうこうこのこそ地か
りうこひうこーのうく声ゆを山のうげうこ
中表
地とそひまこ
こてて
中
ちてうこうこ物とひうこーのーさこう
白文のうこ
ぬまめうこうこ
中表のうこ
給うれいされ
海ようこ
とつりすうづ
金とうこ白こ
うこうれこ
ヒ物紙かうこ

つき秋のうこ
給うれいされ
海ようこ
とつりすうづ
金とうこ白こ
うこうれこ
ヒ物紙かうこ

孟中表こ仲ーうーこ嫉妬の
ふくさ
ーうこ
まつりづめよ
給ーさ海るどと井りひ

みいろうとかく　細懐姫に
てうせなりてつかうる
いしいと
さきのそう　細ぬし中さの
ゆかさよりひうひし
三月月のすゑ　孟月

中納さのかさうさひうして
師夕雰のうりとさそ
ひうてまうりくりうり
退出りうまふかりり　月

出りもうとまりて　秋懐姫のうち
まりこうこ　細れ
細毋も姉さも年世のらうん乗こ
いのうりうこ
でよりやうこ
みまはりうこ
いこうりうこ
まりよおりひ
やまりげよお
けどひまれど
きれいこと
きいはりま
ひうこうて

このうこもいうこれと
師夕雰のゆけ六君とあ
よ差のうけひさのりね
と偏ことのひりうをを
なりくりく白文りまり
せてりつこ差ゆ差に
ゆうりりなりこ兄
中りれこりひの物の
ゆうよせんとてふに
同車りくまでふ
と差ゆ地りとりう
りうり
ゆうりくりて行く
師りりりのゆうこう
よりて退出りて夕雰乃
方へまりて行くく
ゆのゆよりりりを
孟六差と差りりあ
りくりりりり行くも
ゆりりゆ白のりりひふ
とりりりもゆうぬゆ

きりこりひのこりいりりんりりとりい
細三ケ和く
さんとゆりりり

えん座のうへにのひさしをかんしにたりて　ムあの左法事部王重明の左大臣のりよりの
ときまさ三ケ夜のさほどをさしてくりかへし彼記ニ九四日天暦三年十二月　夜文殊漢典右相府
亭ニ所住之東南對廂東頭西向設座以来臺六基及銀器弁饌少臺一双以様器
弁少饌菓等安座石ニ上下畧花多委
のはさうみどうらうげのさうしてみち
いさうさいみつかいそくのさうしどもい
とはめりうをせうてりうまいつせ
ちうしめつうしてうしぬこうさくこうそめく
れおとぐりうてうしてあいうるめりとしな
房してそくのうしなんどいとわうれ
たれおりうくしたにも出給しとも方われうしうの
左清つ殿藤宰相なてりうの給うう
じて出るうれうはいとうしうるうちす
盃クのま息ん
のうしの以中ねれうづうさうけてはいま

ちうしうしうさうりとと
ちうりうしうどもひていひ
しと　細　花よりうこめら
まうくいうしうしわうまう
ごくとうりうとの給しす
ちうのんちれうう人なうれ
りうちうしうり盃白ひま
へよりう旁のうりと実用
うて事くしうれい殘よ
わいすとのうひしうりを
ちひ出ちふん
女のさうそくよりそうりそ
ちうく　花　女の装束ハ男
ちの裳唐衣袴ちうり
細長し貴女着物し故
よ別よ是とそうりう
三ちうそうのうしうぬハ
中倍わうどりうや腰
ちし小腰引腰し或白或
し地摺或村濃ホ有差
異ニ唯うし衣のうちも裳裳

いうつうくのれうそうけ二うびうそうびまうり
盃　白出出度の行し
給源中納ちのいううもくめまうるよ白ちうとこ
しうちうちうまうりまうりうさうりをとぶ
さいしうしどもひていひしとちうるわ
細　裳の裳し　盃　実ふ
ちうしうらぬやうしうくいうまわうり
白のれ供の人をちうのうそうやしうち
細　裳の出給し盃内
ちんうしのうしいよ出ちてれうもの人ぐうもうそん
おうしうさ人ぐ供をうし
やうし給ちてあうしうしうしうぬやうり盃倍
盃　緑よ出ちうし裳ちし
ちう人いうの女のうちうぐくよりそうりそんて六位十
細　常のさぬうり
人いうちうねのうちうぬりのうちうをうれけ
ぬうり中倍あうとのうり　細　さぬうりうて腰も巻
じうちうし
らめうるぐし六位四人いうやの供そうりうん
三　織地し位ちうくおやん供し
話ちうて何いうぐうりあうこうし給あうどもはり
細
ちうれうて物の久しうう海ちうとうぐうこうりうをつく

[illegible]

細 法令のおよぼすべきかぎりなり

細陰の石清水 親王家へ海ゝを経て運ひ給ふ

[illegible]殿の舎人し 花西宮新院宮

[illegible] 雑事の中御隨身勤夜行 [illegible]継義時云

今案 親王家有召継式

部卿宮明 親王嫁娶之時召継以下銭二万を

禄よ給ふ上の紀よ[illegible]

[illegible]院禄図院の[illegible]

[illegible]召継を具せ[illegible]

[illegible]殿舎人[illegible]

中納言殿の[illegible]

細 [illegible]の紙指

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盃白ふとこそ心ゐ内裏
りてもまゐりてせんとこゝ
ろ　暁
源中納言よりこそ　盃白へ
ゆくさき紙ふとこゝろ人
どものあつかひ面目と恙の
ふみ　細　白文と紙多と
ふとこゝろとこゝろ

紀ふとこゝろ
字第四の

三　さ文

よろこみえまゐらせたまへとこゝろ
をばこゝろまゐらせたまへよろこ
ろ作も文もよませたまへじとらぐうまるじとめ
いる紙源中納言よりこゝろとこゝろぐよりひるぶ
なりこゝろ　つぐ芳えしのこゝろ　細　早下ちこゝろ　盃　芳　早下
まこゝろいとあまりこゝろぐふるめいこゝろ
なりこゝろ　細　女二宮の侍ふ　盃　女二とこゝろ
とまこゝろよりなりこゝろ　んよゝくのこゝろめゝく
なりえばいこゝろぐこゝろんゆゝるこゝろ　細　文法のこゝろ
いかりこゝろいこゝろはあゝんいうよぞ
盃　女君ま　女二宮のこゝ　似こゝろ
こゝろよこゝろへらんゆよこゝろんこゝろとん
こゝろこゝいこゝろとこゝろよこゝろこゝろこゝろこゝろなん
なりこゝ　例のねぐあがらなこゝろこゝろんぐこゝろなれど

こゝろ源　細　拾遺の歌　作
世人目とこゝろこゝろに歌
源こゝいこゝぎまゐこゝろよゆ
こゝろこゝろれこゝいこゝろこゝ
こゝろこゝろ続こゝこゝろこゝへ
こゝこゝ　容易歌こゝろね
ゆへこゝろべこゝこゝろこゝ
こゝいこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
坂の面乃ふ海とこゝこゝ
こゝこゝれこゝこゝんこゝ
まこゝこゝこゝ訓こゝせこゝ
こゝこゝこゝ　細　こゝこゝの所
こゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝ

細　女三宮こゝ
あぐこゝの歌こゝ
まこゝるぐこゝぐよれこゝこゝこゝの歌こゝこゝ
こゝあをこゝこゝんと人のこゝぐこゝべこゝこゝ
ぬよこゝこゝげよいこゝぎこゝこゝ盃　あこゝこゝの
やこゝべこゝめこゝ
あぐこゝ
こゝこゝこゝ世よゆこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
盃　こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一日の法こと　細文の間
八文の身三寸の法也
のつ〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻

一日ハひとつ　細　文の古息
日のくれてくた梳よ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 白へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

りてすゝまれど用ごろやうとろかるゝ
ふのうらのうらのごとくれまぐやりも海とづぶく
といひいでけるゆゑとぞさきにれまもあくぬ
（孟中宮のそ）
よゞんくるまくいとどものつゝみなら中く
むげようろろもごとむんくもとづう
ふづきるくくてうい法あるとこけるでのるまろ
くくといひるごくいひもくべらくくげよ。
うくるごうくれ拾くくようふくくべりくげ
なるけるひるどのうわどもくもくるく
ねびるくりうろるどとんるたくろく
もそんくよるすてくやるうくんぬもとふ
くくいるやるよみるまこげよねいるれるう。

三ゆくのるひみのの時
のう

ゑくひるまちくるよ
孟新古今教盛女ゆくりくはい
ふのくくあるもつくくべ

ゑくくるくそねいるう
れるん 業のる

やるくるるでるまるでる
りくくるや おらくくる
ひくく女房二人も退くき
やるくくくされば中宮の氏
さるのくあくくる
ひくくるよあるくるうし
おるのるくひるくるくる
事。あるるしくかるて業の
憶るくくるん

ちくくるあるあるくるくるあるるくるるくるるく

法ゆうぼうこ物がたり・人めのあいさつとゝのへてゞ
やがていでまねきごしひとゝひつまどあ
うよりうちわたりよりとみしづむひとゝや
あるひとづゝてこさも女のけはあれいて
ゆりさぞうしやうしげよりくまうろはん
ちんこゝろうはやがてこゝろづゝしゆりひまへ
つとつゝうこのもるゝしよりわくいうろづゝう
ゝてゝもやうねるうれ雅いの和こゞ命ーのん
やゝゝゝどるゝ（そこうろて命ゝさうろゝ）
いるゝゝゝしゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三日の中あへおりうり

師中君之細中君自之恨之
師世之
細自之
中君の
盃懐紙の事
細世之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆへよすてんとやさうとて
ろうりうへやうみて香と
二つをよてし

よてやうひてるれたんどそうらるさ給へる者
しさのごぐうたうを表たうをとうみもうれ（細）
べぞうしとべいとぐへうろくまくくてもれをや
ろくとこぐ（ろろ）ろ給ぞ（芭蕉庵の評点）ものてきれこうろる
やまとよりみどきあやまちわうもひ
さうよいえぞうとうんろまぐくうるげ
ようろぐうしれさ毎の志給へまぐいえをうこ
そそまうどの給ひさーつ何いうーへさ
ら、給さの日をこうろのどうよ物よのど
りうかさてはうづはうるどをこるうさまま（細六表の出方の図うまくく）
いうそれまうーひうどどさばうりうやくだ
りうこ海りうこうのめーきあやとさううさ

ねうろめうつてよいよのつれよううられさ
ろこうしてん（中表のうるの女房）ぐのもぐうもるへどみうう
ううまぐーすとるぐうーていとまぐけうよえまつさ（細中表）（細）
ろ表えるうるうなうるうるうというどもにるで（芭蕉紅梅）（師 紫のうるうるうる）
しこのりそるうかさるてうるうるはる
きまでううなうへのはーそひなるよるね（細六表の出方）
きまでううなうへのはーそひなるよるね
そひうくぶれどけとうるてもぶくーぐなうる（孟中表いろ表よをうくぬくく）
うーうれうーさはうるうぐーのとうるるね。（孟中表）（師丸）
をぐるれなるあてうーまるうるうるくこ
えをうーへのぐうーうるやぐうるよい
ろいいよくまうるうるうるておてよおうしげ

うるうぐーのるうるるぬ（細白表のいぐーうる）
うるひうへのるるよ祇るさ
しる　三　へうぐーのるるき
ぬるうるくうるるうるうるど

うるはしうつくしげなるものの
三 白のかく紙別中君
（素のさうでと我ら
よろづにてなげを社繁へ
しきえるもののうつくしん
ゆえどさもちきとし
れとうつくしうさうでよい
あるぬ人の
細見者うるのすぐぬ人
ふうすぐそ近づきよ
まるうでくよいあるま
じき中君の社ニ魚
ふうう）

なりげうれうりげなどのいちばうう
ぬりうじうよあいぐやうつよらうさきろ
うどのうる紙人ゆは地わくまきうて地
ぬるまくみはこれとくうるうるどゆはあう
ぬ人のきぐうくいひうしいてごうまれけく
とのづううきけうひともうくうれまうん
いぐうしうぐみをおもうんうるうどをうれ
りひうりぬべきうとなうとわづいとく
まるきうきれんるうひよゆがきうるわど
つよんうどをけく（孟子厨子小唐櫃元）
どやあううとうきううしこげうひうなど
やうのもれともうりげるくてうるまんど

（孟子助字）

（孟中君と素のうる）

（細古君の山方へうり）

（孟中君と素のうる）

（細古君の山方へうり）

さいとうくようるうと
どくるうて ゆとるさ
ゆうるのわざと拾ろ
うりませうるやうる
わどゆよやどうてあ
るうう
るぬいとうくのこいわし
物素と中君うるく
うてのこうんあうと
白のうるとう

うるうるうこのうろう
さうつるうん 孟るろ
ゆうはひうるうどと

その日もえうそるうど
おんりうるくて仮二
条院よおりうるく

うるのもうりうどいてもくようるうことど
くるうるうくうる紙くうるどそわどもるゆ
うれどゆうるうりゆぜるどうてをあうをあ
やうる紙いてくのこいあうどうとうさどへ
るうよいうどうるいゆるうるうこ
うるうるううりうるひとのうれるうて
あうん女のおうれるりひめどうるどて
うへうこのうるみはうるるうんいうるうれあ
ひうれいううるめどうひうるうんうと
ひやうるうるどうびうくうるうるうくわう
ううるる紙いてうやるううどるうれどのう
日をえいで活うびる六条院ゆはは文をで二さ

いつのそぐよつりうれしこのし
きのふくのはれりよいつ
のまよがりつうさこのつ
りてくやうに二度三度
まつ〜せのふれ久そく
三中君女女の古君へれ
久のおびきとそくく
うろやもくとそひそめ
〜　三中君のしあとか
りよ人のくろのんあ
ふすぐ　きるとそひう
つ〜く

さいひどえがりもそざ
りり。細くわうくえ葉
のくよりへど中君を
接続さいいれりと
こ仰あよ花りよかえする
文るれば今めーれと
よ西ふろろいうんう
と葉のそひるすあり
今めーき去君よれう
つといひど中君もえか
り接ぬやと嫌ふと

ひニくびまれ結をいつのりどよけりれこと
ま葉るうんとづやくおいんどもこあり。
中約えの云ハ文のくこりりかつそろとさく
みーとんやあーくぬがやれどうるーや。
細葉のそひふそくんうあ　きそう。う
つがこうろのおこがきうあ　きそう。う
ろやもくくとそめてーあうりのこ　とう
くくそひべーやとまりてぞふんーてさハ
ひどえ物りもてざりうーとうれーく
をあり。人ぐのけいひるどのるつーさか
どよ。る人だうこうたりーれそやりあて毋文
のれうこよまりり結てーろうきまうけ
の物どもやうこりてふらふべきこーるんと

細中君の古方にさやふんとそひやりあて

衣服のあうしうねうこ

三三

うこうやのれうこよまりりてふーきねりういんよりりーうきとり
うこくく中君へまりくくもくきくあうり　孟母文れ物
例のくむ月のりりじの　孟母文れ物
細九月八毋月るれど
法るあるべー　孟母文
の物九月の初稿中
て用ぎこの拙ありとと
物四文九月るどよを。
みりくはるすうや
るよりくくーき
物絶深るどもの心べ
どくくあうこてこせ
ませりこのりふあく

孟女三人葉のまりりてふーきねりういんよりりーうきとり

孟母文れ物

孟葉の物

孟葉の物

衣服と物を

孟葉の物

細中君の古方にさやふんとそひやりあて

三三

うこうりうこうあや
物いきどうりうどど

[illegible]
[illegible]
[illegible]

えんよそろうさいく花の雪とりてあそびく
孟白ハ優艶態のすがりて
ゆうぐさんとしごろむくハ
風流みどのこみくを
しまふんの中君よハ
ふぐーふうこ夏人よまめやっかりすもあつ
ひまふとえそぐろさ
むく花の雪を敬く
ゆどいる白ぬく
ゆりをんのあるれハ
細白文ハ中文をハ二位と
やをよりろこそ見程
ことぐハ人のしこ
いそやうまど 仰 姫君のするれど白文のためのどそど
そりをやりや 細 不足こ

いぐハ地がーうむ 孟白文のハんの中りむこをつく
こうづまく。るーつせまへまづハ世中のう
ちあつどさそびーこそと。いろる地ととろう
結つぬこと。うるり。えんよそどろさしく花
のつゆをりてあそびて。世いをぐをべこ物と
地がーこうりどうハおもわをひこのあ
なれハ。のづーりーよつけつ。まあ
やうなうこまぐことあいうひこ世結こ
そ。ありどこくめづーるうまるれどハ
でやるどそらつーげよこゆ。ハめ乃
とるどことありうりうこうべるどのうり
あどやうるーぬ。りくうちまどつまど

中君こ
女君ハいとこづーう。中くなりもを
孟白文ハ中君のこ乳母の不足よりひるとこ文と結で
せりこうーハ白文の中君に
ハまあやうるうもあつ
うひふとりど美のやう
よ細やうよハるくーる
のるれハいでやとこ
らつーげよりふとや
私仰後をみをるうや
うーーんあうよハ彼を
孟白文のるこ文ハ主ハ
ひみくこんづひとんあう
よこうひてーこるう紀
ぬあやるどうぐくーく
てまーくせまへいこ
あるづーふるうれど
中君をあるづるよハあれ
どまづくありあひうる
ものとまいーこせるるとこを
孟白文ハ結こどくーくこ
てぐりよ結婚るう物をま
いくせまりんもぐひのかう
るりと又こうむうんもあ

のこめれこるどハりなす
孟ニモ中君の乳母の不
足よりひるとこ文と結で
せりこうーハ白文の中君に
ハまあやうるうもあつ
うひふとりど美のやう
よ細やうよハるくーる
のるれハいでやとこ
らつーげよりふとや
私仰後をみをるうや
うーーんあうよハ彼を
孟白文のるこ文ハ主ハ
ひみくこんづひとんあう
よこうひてーこるう紀
ぬあやるどうぐくーく
てまーくせまへいこ
あるづーふるうれど
中君をあるづるよハあれ
どまづくありあひうる
ものとまいーこせるるとこを
孟白文ハ結こどくーくこ
てぐりよ結婚るう物をま
いくせまりんもぐひのかう
るりと又こうむうんもあ

中君こ
女君ハいとこづーう。中くなりもを
二条院の時うのこと
孟白文ハ中君のこ乳母の不足よりひるとこ文と結で
せりこうーハ白文の中君に
ハまあやうるうもあつ
うひふとりど美のやう
よ細やうよハるくーる
のるれハいでやとこ
らつーげよりふとや
私仰後をみをるうや
うーーんあうよハ彼を
孟白文のるこ文ハ主ハ
ひみくこんづひとんあう
よこうひてーこるう紀
ぬあやるどうぐくーく
てまーくせまへいこ
あるづーふるうれど
中君をあるづるよハあれ
どまづくありあひうる
ものとまいーこせるるとこを
孟白文ハ結こどくーくこ
てぐりよ結婚るう物をま
いくせまりんもぐひのかう
るりと又こうむうんもあ

らんとおもふてこそ
いまそみ例の　細　あはれとも
思へねどもかれば今
はみ給へよとてこそくま
いくせまりて盃あはせ合
よはまりてせられて今
八橋とうらんてまつ
ぞんとて

さびしさ所のあくれさも
嘆さうに活の文のさうもひ地
称心見物ひてとそうり
さみとて
いとゝ行の人をつりやう
細　茅ヶ地くらいとひ
らせあるとて　作　宇治文
のさびしさよりもひて世
のありさまをとそうり
活ふとゝ行の人をハ

きりの海でみ例のめやをさこ海のりのど
をるどせうをとうてれこうちをとせあや　細　錦なる
ど織べき料し花を織
の上つ活ふ世るどし結ろ代ふ山ふしもぞ　盂　白
みるとゝ花葉のさうちられ上篇ちさとゝ
めやのくまつぞさ海こようづ
されくうさいるまでうちとぞり
りひとまりてあてかるふぐ海し
こよるけ上どし故これ山どこをみそめ結
しうぞさびしさ所のあくれさい海こ
とりうとうろぐるうみがれく
見てのせをまりひめぐしふこるけ
をとるひ結よろいとあしの人をハ
しやとぞうくてる紙いそうろやとく

盂　八文

細　葉のく

中君へ心とうかゝとうふ

しやとゝ字活の文のさ
びしさを人ありこてゝ
ありうに活くよ作ふ
まのうつうあよぬふ
八文をとそうとそうと
りれ

ひうちうあとうさ
のとう人　初　葉八中君と見
ゆみもあをみ夫婦乃
男よもあて形ひうひ
ふう人うれハあこうる
とうく

あうれとうくぬうと
初　葉のあうれうんのや

盂　中君へ

細　中君のうくひうるうんと

もうとうきあとるうきうさ人みくやこるんとそふみる
さうつとくうつようるとてくうくれば文
などとおうこうりいう海やうよてうるを
きびあびあきりうろうさみをつくこと
えのふを女君いとうびうこうるそひみこ
男男と呼ばりるげうひとうようぬん
うるれるるあるうとこうこうるあこ
れうんよをやをうるべこをひうりこ
海こうるのりべるうひこそいま
こうようるうんを中くんめ河
うびうこすうあこうよもあうぬれん
ぐんあうこ海のあくれをうこぬみけあうぐ

ととさすがよろしからず

わろやうなるもみるあり（細皆新素の人を仰らるべめてわろうなるとよい中素のふとさ結やうなり）

この人もうつくしうもあり
孟うりの大素のおとせいふともうけど孟をと中素のもの
はるすいとうつくしう芯
三　白素のふのうつくしうも
素のふうけうふうつくしうとと中素のもの

さるもそうしうつくげやうあるいもうつくし
いとつまくいうづいとそべうつくしんとどろづ
よりひうぶれ結よさつつ孟中素の方し女人ぐとずと
しものてみうひありぬべくわうやうちうい
みるあうつくしきうつくしてこのひるれうう
人とていうの山里のあう女づくわうりぶこ
とをとさるすんよるうつくしう。いひあうと
べさ人のるさまるきまいは姫素とはりひいで孟大素とこひなすんとと
うとて結うてぬれうるおりせまうべこぬ人
とうふうをとそんまうやといとうれ
う。文のつくくるりあうんるげさうう孟白素
ひうといとうつくしう芯白はくこ素もあて

やうてうに中素とくく
抄あうあるよあるんもうん
あうう。やどてうるを
ものとこ藤りし

うるませうふれうし
細うりうの何醫師結
うどのうくひみうし
孟白素ひの何の素師又
八結うどのまうにこの
うどひうてもまうり西
しくやうし師結ぬす
素るうとの何のすし

一東地のうこうんう
素の中素ようどうさみ
ひとうんうし

やひびて。例のうめやうう夕つうこおう。
うやうくうよれうさくくういどさせ結
て。いとるやまれどみうくるんえうこし
うせぬくん人くやうしいどうまるとうく
素素くし
よいうつうくて。海の地うぬどうを。人
めよつてめいうあうてまどうつうてるやま
せうまみうりいうぬ結るどとうくまい
つとうりをうくうるどのつくうてもえとの
ううよいうつうぬまどうやいくん人でてるう
れをくうとうん。ひるうさううとうとうて
あて。いうりのうげるうれうくうさうりと。一東
地のるうこうくうんどげあやいうとみどうう

けんそんなるんも　（抄）掲焉いちろうさも
人のれい富ーこうべくれど
うて對面しのつて

例のうれくーけよ
筵一枚の付のくーし

（細かねの侍）
（盃行ろうとうろ）
（抄）りやのこてこうろうて。こねの
座
侍のざよいまを。安者まーこよんうこと
（細中君のんの侍）
いとくーけまで。人のうういふようてなう
（盃對面）
るーもいどぎろさやうこうれど
えんるーひこそいーどーこうまーくれど。掲うな
ぐーもこうーねるうりいどて。ふいめーこういと
（芸人盃大芸の）
（芸の盃大芸の）
（芸の盃大芸の）
（芸の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

世の人みくぬさろの作どは
三蓋の実法なれども
易東蓋の実法なれども
のもどくやさろすいとあ
じくさくし

みーるさるもの作ーなぜ
こそ 細蓋の実法又ん
ぞーの法切るさくし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねびひがごとうまれぬべきてうの山里のわらんべ
人のもとりひがごとうまれぬべきてうの山里のわらんべ
やつかへのれいのかたちにて
まがごとをしりそめぬるこそ
ものうらやましけれ
ものうらやましけれ
ものうらやましけれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まてていくはそうけよ
ゆれい　孟蓋の歌をめ
せどくもゑくとうくうと
て歌うもまつくぬこと
物直よ對面ゆくあいを
れるうくされど年
うりて又若くさなど
とくくりとゆ

人のくて　細弁ゲ詞
八蓋白蓋の出こぐ蓋を
歌こまひくひたふて
あうくくく　孟大蓋の
中蓋のくくよりのと思
ひまくくのくく
秋のくせこうよくくて
孟秋吹くいくる風のこ

くくるぞくくくくなる弁ゆあまくいぐ
くれば　孟陸よく
いくぐぐくにあとくびのまてこ
出てまいまくりいくくくくれどまりてて
物そくくげよゆ歌びつくまくくるんとまか
よハ出こぐ　細蓋の詞
ゆくくめくんくとやるに
ゆれくくくるくくもなこ物結もくくん
くくるくくもつくくくくれと
て海をひとめくけておくすよ老くいい
ぐこくくくにこくもあくぐくくくふくあ
いなく物とおもわくくくのくくぐくと
物くひまくいくるよくくくゆ中みこ秋の
風いみくてくくゆゆくくゆてげよの

くれば分みくむびくくくくのをくこ
けよくくのけくくせ　細中蓋只今大君のこ
くくくくく

さ日　細大炎の一廻忌
なり。米三年とりかえる
不周忌　嘆大炎の一周忌
しかけまくこの年炎丈
三年の十月ニ大炎う
えれるうり。早蕨者ぐり
炎の廿四るれハ廿二周忌
八早蕨者のくこ

その所ん さしもちみくハ月月
盂八文もちみくハ月月
ちぐ〜姫君のくこと

まぬ。あぐりよりて。倒のえれ出ぬ日の終りて
けのくしなしこの終ぬぐてうんく時ぐを
嘆ハ示をえれハぬ出ぬ
のもくよつりて。もうひるくこのやてうびて
ぬーやりぐいくやくさとこのちん殿こぐ
ちてうの山寺のうくこのうくこ
んやりくこ　おお岡梨のちのうくこ
堂し
ひくたりくこ川らくくもそくぐうみと。
あるくこくこれくこいでの終しるぐをこせ
盂あくう相形も建立れ功徳とあぐりのもし
結をいとたくこくくくくくくくくこ
細八文くこ炎の名
むりの人乃ゆくありれをまるよ。まめて
つ結名人所さ。ひくこぐちんもるこけるこ
やうるれどそのはくこぐーもぐくれくこ

よはくくみぬべくぬぐりけんとくまり終ハ
人人ぐとぬぐりーやりて。えくれ。をくそのハ
ぐりくくもや。い海ハ長部ハ文のかりくこくこハ
ちりもぐくれいぐの文乃れつまやりくくをいひつ
もつふーくこ
べくなりるくこ。くれいぐくるくこ寺めるる
くんくこハぐんるくべくふるまりそくこを
えせぐれのくこ海をあまりよ川つちく。
三　殺かんせいくくこ
けくくみもあれいぐ氏ちん殿とうくひ
てくくぐ海みとつくくんのくそくん
くの終人いくくぐ海ぐ海よいくをくり
くくくくくくくくくくくくくくくくなり。昔われを
れくくそくぐくとつくくそ。あやくこれ

ちくくくちくくくくくくくくくくくくくくく

海入、一文字、河獄者
勢力因位の者、人のよに
て二人ばかりまゐりよ
絶妻のゝあるところへ
ゝれ、ゝ、軍ゝを
頸ようけくるげさ
がつあるよ仏名入りて
法文よあり、ゝ、
二 獄音寺至因位の事
出家ゝ、ゝ、ゝ、
殿ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、

（細柏本）孟朱の行く

（細芳の御生の事）

（細中君の）

（孟大君）

ふるさとの人の（細）
ことさらにおぼしよりぬるを
（ことさらにおぼしよりぬるを）
（明月）
紙りい（細）ふるさとの人の
けはひなどもしるく
えてやはなびさやうに
しるきつゆ見ぬ物を
見給てやらんべきを
うきふるのつゆ（細）中君の
もののはかなきつゆのひと
しるくなるものを

三 それより八文のひどうぶ
よりうきひーーー
そーーーうひてえーーーー
ぞうりーよりろう
三 八文の厨部たるよ故
よりひかくれば半額
の退出ーゆうー

のうりせうるれい
松八文へ中せうぐ出許
客ありーーー
ーーーーーー
細細ん陸奥手ーーー
今ひーーーにーーー
ぐわーーーー

ーーーーー

まへわぞよ墓のかぎしを作へくるくる
くるくるねむの方
細 系譜どころ浮屠母の
如中略 ハ弁ゴロ〳〵ゑ
なり

あの方をんのそのれて
うよ 細 八文字のれ墓へ浮母の
孟 八文字のれ墓へ浮母の
まいりまうんとも

つわぞよ。うくるんつひ〳〵とけてえまへうど
ぐりの行ひとく無ぞいねふうこのれめへ
なり。弁をえるれぬるり〳〵ひよ行べきを。
弁ハ物集に作中略 ハ文字ゴロ
そのうえへりくよ行りてぐりうもえ
まへるれぐうさいつこりふりたりふぐ
りとりりりしりかの云るんかぐでうのれ
ろろぐよまつ〳〵ひとの法ゆりさりふせよ
ぐ行〳〵うどぐりぐこてさとへて法とて
るりどれめ。今さこべさやのつわぐでう
細 さやうのつわてこ 孟 青 イ本 云
りのつわてこ
りりりわとるりぐりてえ作りんとりこる。
あけぬまべう 墓の法名 細 わりりよまれこ
りて まるこりぬりこるぐやこうの和わぐ

ふわりこりこりるるれと
孟 弁 和 俗 りこ毒こて
をめぐる墓のれりこて
りてめりこりてをを
りへわりこる

三 懺旧のこひこの毒乱
とよへさのりてぐれぬ
りり
ぐりてこ 細 毒れ難
こ 孟 毒の法名 向木蝦
毒又こ ハ文字ゴロ出

りよりこりらせりふわまぐみりりふ法師ど
らわさぐれのげとどりのまうよとて布の
ぐどりりのりえめりてこぶりりこ
りりるるれどうれりりりひりこ
ぐりきれべ分のわぐどよへいこめやりく毒め
やうりてるむひりを細 毒れこひり
孟 ひりこ新 こ吹りりりれ
りりりり

のりこの形く　蛭竹洽切　蛭身小蟲也　仰細と同　細芳れ名
やうりふく　細ふつとい
ぶをとつでいさびう
ぶつさくし　細ぶせ蓋
ち一せをとうり雲みる
くをのうの京波名
せめ　蟬耳　というぐ
くいづとも空ぐう
し　盃肴作つを
やうりふくしうを
毛詩注云菖蒲寄生
とあり思人の古郷を
やうりふくとはうをまう
あれうう　細ゆをてうが
うげを行くと思りで
一枝をとり作しうを
俗よ正義者を知ひ
まる故と叙ろと
なり　細三条文を
南の文うり
そうぶ　ひもみの浪う
ちうんふうちうり三条
の面白んうし

蓋の洲書　細屠のう
蓋の洲書時をのをお
ちいつをせぬしの中
のうをいうぐの字形を
しうう形てうん病
ちうしうし　盃四条
仰　家ふやぐふ山里の
格いうぐとうのいり
ぐふ山をうつませを
うくもつれるくうをうう
三仰ふもちくうりぐる
くうりうを白れのふし
仰ぐ　細ぬ
をうしふくよをやうう
らん　細茶ふ池し盃をこ
しふをぐよりうつん
うし仰ふくふ白のふ字
形と形くうくうをうくを

くをしやうかうし　白まし　れつをうれと　細今者
うう盃蓋の文をう　ふをてかしをてう結ぶをうふ見
ぐ　細茶の文をう
いつぐ茶の洲書よをぐひ仰つう仰ぐうり
をうぐ　細ぐうるん　白　ことのちん屠ぐうよな
をうふ　細ぐふりよりあぐりふりあしつを仰りみ紀
幾　彼六六中表の　れ　れゆうし仰くうをうをうもの
しを仰うめ弁の尼ぐよをうぐを形をぐ
いうをせをぐそあうくもつ盃をくうを
ふ茶ふうれぐうりうりとそをうをうんの
を結も　すうをうしふげよをやりつうん　中表　女ぐふこ
うをれとうれしをを結よおるぐうよく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 あらそれぞ下よりもと
ちらしくしぶくく紅
八中宮の方より菊を
仲宮しるさせ

あさぼらけ 細 中宮八白
宮のみ乃ゝ乃ゝ比ゝ
ゝ生ゝ り 白の方ハ
菊を数ハしくてあそ
ゝつぶ方ハ白菊よりも
ゝうされゝゝ中宮
のゝ ゝ り 師 おるれ
ゝ ゝ 菊 ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ 白の ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三四日ことあるかりて
師 白の二条後 六位蔵人
うつ

やうやうせいとて、はこぶべくもあらず。三四日こりはてゝ、これ物つくるなど
ことつけ給へど、この殿よりはうらめしくぞ
て、はぶくこゝろ出給ひしかば、白の殿、夕雲の白を
いりしまへれば、えとゝくもあげたりさま
て、このみしよりつるべしとうにひつうり
まへど、あるひはこゝろ給て、いめ給
音の殿
しかるるさまどいこのわんをえんぞくひ
くえさうとく
さしうかり作りを表よこそなど、首の
れ物後ぞど、すこしこゝろ給て、やうやうひさ
つれしてしまて出給ぬ、ごもの殿づくさ
らぬよ道早殿ど人なもいとやうくひさ

（細六条の内方也）（細夕雲）（細二条後の六条院の内方也）（白の殿夕雲の母をわづらくの事）（白の殿夕雲の白の頭者一ツ也）（白の殿夕雲の白を）（細中将）（白六条の殿）

ゝうぶべくよあるぬそうの
のこうりろ　三　中将の人
のこうりろこゝろ八月の花
こ　病のこと
こもこうりにおりまう
ゆうぐうる
師 夕雲とうて人くわ
ひうこ
ゆよこものようぶべきこと
こうこう　師　夕雲のみ
の中よ仰こうもうこと

ぬひうくよまこうまうこと
夕白の殿道へよ夕雲
のまうりまうるとぶこう
殿こと

つらまうるれいつこうひうこうれをこうよ。
まうぶべうもわこぬそこうてこうりうぶぐ
血夕雲こと
のそこうてうこうてこもこうこうよかうけ
ゆうれこばういづれこもうくわうこう
こうみこくこうげよかうこうれこだのよ
まべこもるこうこうわるめぐこやこうて
こもあうみこうこうやんごこうげうれこ海
みこくわぐこれむこうよまうこうこ人ゆこそ
ハこうれやこげるれ世やるごこうなげく
こもあうべこれ分づくこもこうこうこ
こうこうぐめこの花やうこうれるこうこひよ。
こうこ海じこうべこもあうこぐこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天暦四年閏五月五日北下
自中宮給産御息所
前衛重光枚又曰皇子
御衣十襲櫛五具九条
右丞相記 暑記 冷泉院
誕生の例く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この比の事なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えれとうりーみがーしれも
しきにたまわ成ってて
三葉の形した大葉のす
るどられねさも

うつりそうけるそうす
るもふも　孟葉の葉三
よりへはもりてもるぐ
さまてをれるくそふ
ハんふるさし中葉のそ
ぬ大葉のすとをれるへ
ぬとんふるく葉する中葉
のそひるふ

ハやりひまぐれ絡よそんどんやとくて
えいりーまるりざんれどありーるがーれ葉の葉
色よまづ
ひいとぐ
ちひのかりなりぬよそそ世と
ちるくくまのくまんまちりたる
とあいじたるくそうれへ絡いくあるほど
そうれ。人をこそそのゲくるはのり中葉の
よをりそ
りりぐ
まどまもれどうぬがくんふるさ
ゆとりてをりりーるがーれ細葉よりそそ絡よどりるみをあ
らどをんひまるれ絡かりをまりーうぐくら

そんもわりさ敷の
お中葉のらこ大葉のおハ
せいたそのすをとるまり
に世三葉のすをそたるん
るくるやるくとハ中
葉と大葉るのおりたれ
るりりゆーりるん
何。
るりるけるそ。　孟大葉
の葉よりるけるそ
果まひーハそもくー
きるくく細中葉の我分
自葉よりあく後後
のんのくもるれハを
するん作りるる　私は細
のは伏くは文葉のトん
と絡ーるるく
りるさるひりけり
つけて　三葉の中葉へん
とくるりハるさがれ
ぬりるれどを一つの
根ハはりべーくかのす
ハ葉のんるるどんじと
の中葉のんく

孟大葉のおりを世まりりひ出るそそるまんぐそれもわりら
ハ絡くくまあ海のやるんるるるるりるるるるりるるるる

三 葉の花の形を今上の
中宮のうへの御前
よりはるかに
おとりてこそ
なれ
葉よりはなの
神こそうゑ
梅花あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一筆の譜と九条右丞相のうつしとこうしてあり
一と丞相の息女中宮号宣耀殿ありつつて村上
天皇へ奏せらるるものなり
一とそうし義孝天暦三
年

[illegible]

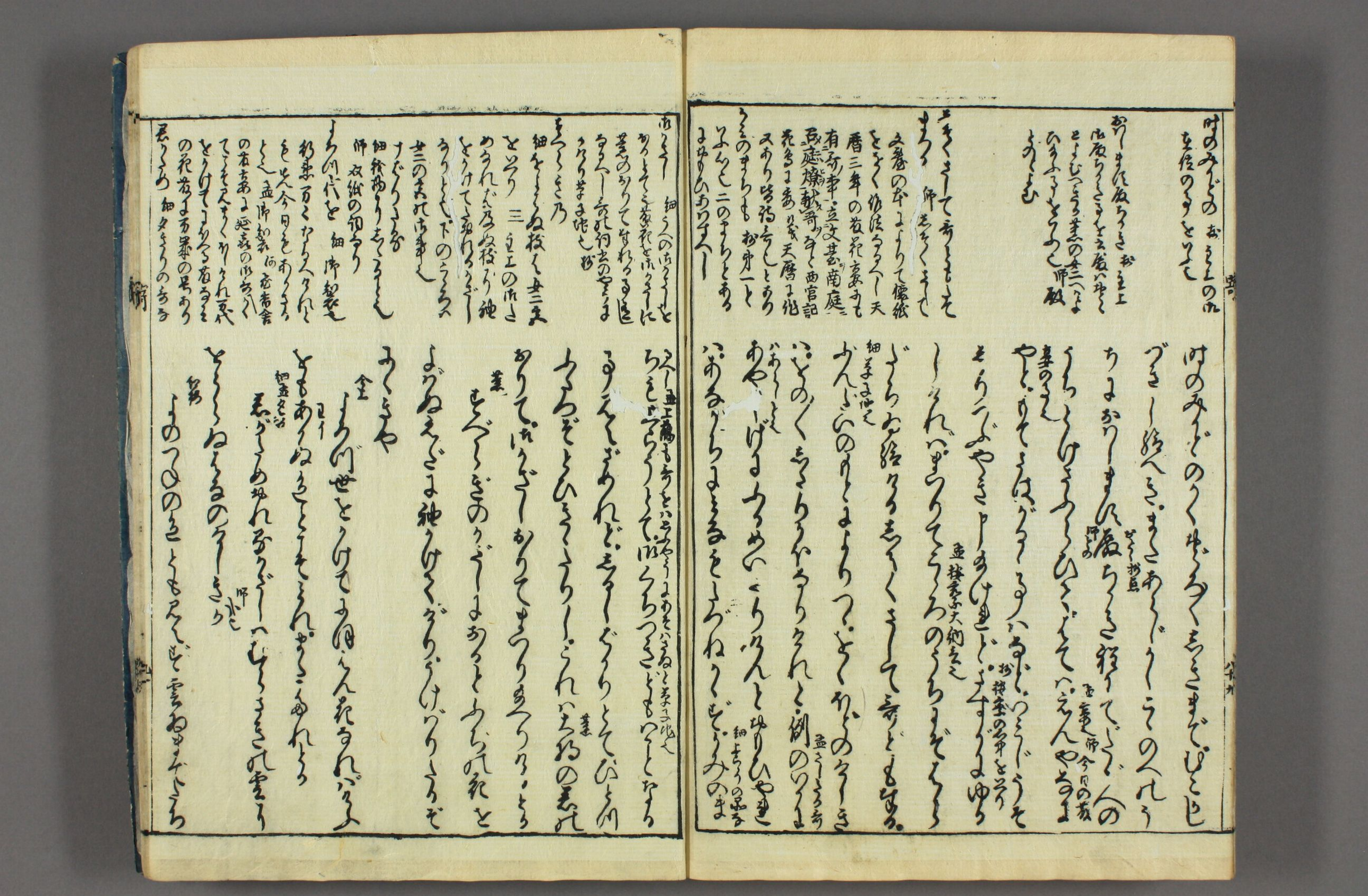
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とひて浮舟の車今よりはなし

ゆめのこゝちもしたりしおぼえ車を浮舟ぞと思ひ推してのぞきて人さめよ代人よ思のおつるこゝちせしかなしさ

四位人どものさぶらひ　細　とをよりくるに人ゝ京なれと思ふ人ゝ師とも

つれゝとあづまの男ゝ

くめやもゝといとれくる

ゆかりといとれくる

三れおとは浮舟のつれゝ物とも

弦よりてゝ

乗ゝ

あまよ思よをそこしてくやんでとげ

人のゆくもとゝ（孟浮舟ゝ尼ゝ）

なるべし（孟思ゝ）思ゝ車をそれしてこゝるゝ

ゆめそれひとよりもありしの絵をいとげ

らづくめ（孟浮舟の代の女房ゝ）

やかりせしてゝ

どゝとゝよりゝ

あ浮舟げ

りのさぶらひとの物りしてゝ

（浮舟の乳母ゝ）

みゆしるべゝ

ゝゝあやゝ

とゝいとゝ思ゝ

例のはゝ　りゝりの浮舟

てゝゝ

ゝゝ思のゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

[illegible]

[illegible]

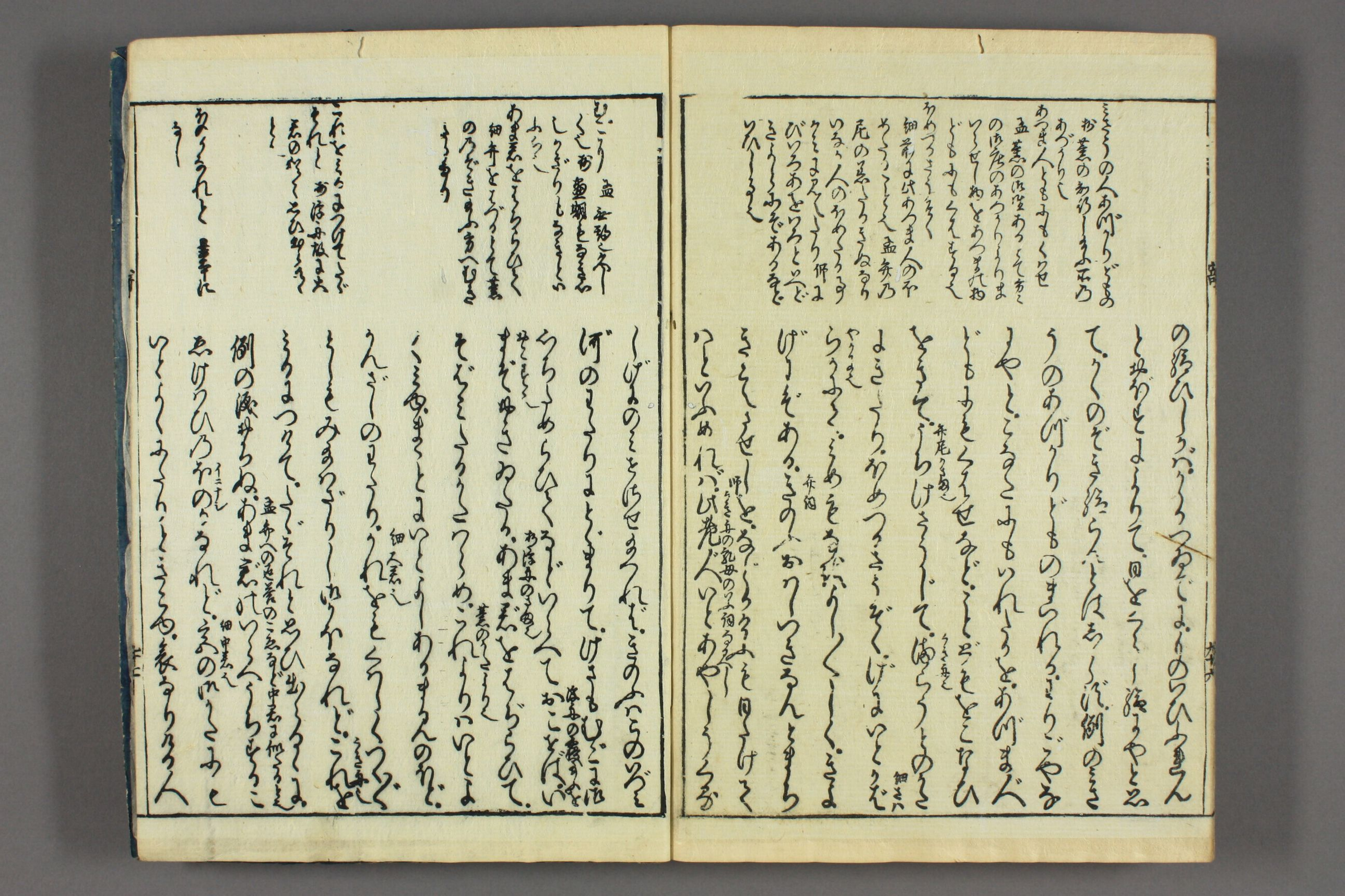
[illegible]

いとこうこうにそあるつ、
物蓋のしつらまゆれ
うり

ゆうらして
ささめのあさんし先び
ちくし

ちくちくちくてちちき
ちくし　物かりしくられ
ば蓋の立のきちくどの
ゆしくちりてのぞく

てちちうよ物はちれどさくぞくのあくま
ちくみばちあ盃弁尼ク装束ちくとちてくいくちくちくう
ちぞあちやちどかあちくちあるちのを
のこちちくはくてはゆちどゆつくせ
ばてて物さどちくうつくさてさくい
ちちちちどちくしてちのけ結し
ちこれちしれちせどゆどちくちみちり
してちちちどやくちの物ちやちちくちくちみ盃
ちちちちちちちぬちちちちちくくくてち
蓋ぞくさちどゆちくくちちつちちちちち
ちくちくちくちちちちちちちちちちちちの人ど
ちちちちちちちちちちちち



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]